

今号は経営担当 病院長補佐に寄稿いただきました。

病院長補佐(経営)を拝命しております病院長室の篠原です。皆様にお伝えできるような趣味や特技はないのですが、ゴルフについてお話できたらと思います。

ゴルフを始めたのは今から20年ほど前になります。当時どうしても参加しなければならないコンペが年3回ほど開催されることになり、渋々クラブを握ることになったことがきっかけです。あまり恥はかきたくない、皆様にご迷惑をかけてはいけないということで、毎週それこそ両手に血を滲ませながら練習をしました。後でわかったことですが、クラブは手の皮が剥けるほど強く握りしめて振るのではなく、小鳥を包み込むように優しく握るのが正解のようです。トラック1台分のボールを打てば誰でもうまくなるとの言葉を信じて練習しましたが、誰にでも当てはまるものではないということが実感としてわかりました。

ゴルフは単に止まっているボールを打ち(これがなかなか難しい)、その先にあるカップにボールを沈めるのに何打要したかというそれだけのスポーツですが、その魅力は豊かな緑の中でボールを打つことだけに没頭できるということだと思います。また、ハンディを付けたり、ティーイングエリアを選ぶことにより、年齢・性別を選ぶことなく楽しめます。ゴルフ場はちょっとした別世界で、いい大人が朝から夕方まで自然の中で遊ぶことができます。一度のラウンドで緑の芝生の上を約10キロメートル歩きますので、健康にも最適です。(妻は、健康のためゴルフに行くと言うと、近所の散歩を盛んに勧めます)

ストレス発散のためにゴルフ場へ行くという人もたくさんいますが、私はまた池に入れてしまった、なぜあんなショートパットを外したのだろう等、反省しながら帰るケースがほとんどです。そんなストレスを抱えながら帰ることになるとわかっていながら、今週末もクラブを抱えて山に行きます。ほとんど中毒ですが、これもゴルフの魅力でしょうか。

経営担当 病院長補佐 篠原義明



日本女子プロ選手権開催地
チェリーヒルズゴルフクラブでの親睦コンペ

今号は本院の災害対策について、救急災害担当病院長補佐に寄稿いただきました。

徳島大学病院は、徳島県の災害拠点病院に指定されており、災害時には医療の中心的役割を担います。大規模災害には、地震や津波、台風などの自然災害の他、大事故や火災などの人為災害があります。また、現在、世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症による健康被害あるいは経済活動に与える甚大な被害も“災害”と捉えることができます。大規模災害発生時には、十分な医療が行える平時の救急医療とは違い、大多数の傷病者に対して、限られた医療を迅速かつ効率的に提供する必要があります。災害時には病院間連携や災害医療における“3つのT”：Triage(選別)・Treatment(治療)・Transport(移送)に基づいた対応が必要です。また、テロや原発事故など化学(Chemical)、生物(Biological)、放射性物質(Radiological)、核(Nuclear)、爆発物(Explosive)に関連した特殊災害であるCBRNE(シーバーン)災害への対応や遠隔地で発生した災害に対する医療支援も重要です。

徳島大学病院は、隣接する救命救急センターである徳島県立中央病院と協力し、効率的な災害医療を提供できるよう、毎年合同で災害訓練を実施しています。また、CBRNE災害に対しては、除染用 TENT を設置し、化学物質対応防護服や防毒マスクを着用して模擬患者を洗浄し搬送する除染訓練を行っています。その他、災害現場で迅速な医療介入を行うDMAT隊員の育成にも力を注いでいます。徳島大学病院は、東日本大震災や熊本地震をはじめ、本年7月に発生した熊本県の豪雨災害においても、現地にDMAT隊員を派遣し、救護所や広域搬送基地での医療支援を行いました。新型コロナウイルス感染症対策では、徳島大学病院が重症患者を受け入れる中心的役割を担っていることから、感染症患者専用の陰圧室内で人工呼吸や体外式膜型人工肺などの高度医療を提供できるよう、シミュレーション訓練を実施しています。

近年、毎年のように台風や豪雨被害が後を絶たず、また今後30年以内に70%以上の確率で南海トラフ地震が発生すると想定されています。そこに新型コロナウイルス感染症の脅威が加わり不安は募るばかりですが、これからも徳島大学病院の災害対策を強化し、災害医療活動の発展に貢献したいと思います。

救急災害担当 病院長補佐 大藤 純



DMAT研修の様子
右端から1番目：大藤



新型コロナウイルス感染症対策：
陰圧室でのシミュレーション訓練の風景
右端から1番目：大藤



除染訓練の様子

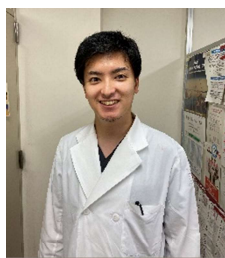
NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



病院新採用職員の紹介

形成外科 生島 健太 医員



令和2年度より徳島大学病院形成外科・美容外科に入局いたしました生島健太と申します。岡山大学卒業後、初期臨床研修を終了したのちに後期研修医としてこちらに入局させていただきました。形成外科は手術を行う範囲が広く、身体中の様々な部位で手術を行うため、その分手術の内容も多岐に渡ります。勉強すべきことが多く、日々新鮮な気持ちで業務に取り組ませていただいております。また体表の手術が多いため、いかに美しく傷を治すかを追求する事が面白くも難しいところであり、目立たない傷を見て患者さんが喜んでくださることに大きなやりがいを持てる職業だと思います。

まだまだ至らない点多々ありますが日々精進して参りますので今後よろしくお願いいたします。

救急集中治療部 秋本 雄祐 医員



今年度より徳島大学病院救急集中治療部で後期研修をしております秋本雄祐と申します。1つの臓器や疾患に絞らずに横断的に診療を行い、また刻一刻と病態が変化する救急・集中治療領域に魅力を感じてこの世界へ足を踏み入れました。

現在はICUで日々他科の先生方の術後や呼吸・循環不全などで全身状態が不安定な患者さんを一時的にお預かりして、その改善に努めるサポートをさせていただいております。全身管理のいろはを集学の先生方に、また主科・主治医の先生方からこれまでの経過や今後の専門的な方針、気をつけるべきことなどご指導ご鞭撻いただき、学ぶことばかりの充実した毎日を過ごしております。まだまだ未熟なことばかりですが、謙虚さを忘れず日々精進してまいります。

最近不養生がたたって肥満(1度)に移行したため筋トレを始めました。BMI 22を目指して奮闘中です。「痩せたね」と声をかけてもらえるように存在感・ダイエットともに頑張ります。

歯科麻酔科 西川 美佳 医員



令和2年4月より徳島大学病院歯科麻酔科に入局しました、西川美佳と申します。私は昨年度、徳島大学病院歯科麻酔科にて半年間臨床研修をさせていただき、今年度後期研修医として入局いたしました。

歯科麻酔科では、口腔外科領域の手術時の全身麻酔や精神鎮静法、また、全身疾患を有する患者さんの歯科治療時の全身管理を行っています。各症例に対し術前診察や症例カンファレンスがあり、指導医の先生方が検査結果の見どころや管理のポイントなどを、日々丁寧に指導してくださっています。今後は、適切な全身管理を行えるよう努めることはもちろん、治療を控えた患者さんの心にもしっかり寄り添い、少しでも不安を和らげることができるような歯科麻酔科医を目指して精進して参りたいと思います。至らない点の多い私ですが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

総合臨床研究センター 八木 健太 特任助教



令和2年4月より総合臨床研究センターに特任助教として着任いたしました、八木健太と申します。岡山、高知の地を経て、ご縁がありまして徳島にやってきました。初めての徳島で右も左も分からない中、着任時期とコロナの流行がちょうど重なってしまい皆様との交流の場の自粛やご近所の散策も出来ずといった現状で寂しい限りです。

現在は臨床研究推進部門というところに所属しておりますので、特定臨床研究や倫理委員会への申請といった臨床研究に関する所で関わることになるかもしれません。

分からない事ばかりの毎日ではありますが、総合臨床研究センターの皆様からの手厚いご支援により日々を過ごしております。1日でも早く業務や環境に慣れ、一人前になれるよう精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

小児医療センター 上 玲菜 看護師



令和2年4月より入職し、西病棟3階・小児医療センターへ配属になりました。上玲菜と申します。私は子供が大好きで、患児の成長やそのご家族も含めた全人的な看護をしたいと思い小児医療センターを希望しました。

当病棟は、小児に関連した様々な診療科の患児が入院している混合病棟です。加えて発達段階に応じた対応や子供の生活サイクルに合わせた看護の提供等、小児特有の難しさも感じております。しかし、子供の笑顔が見られた時はやりがいを感じ、たくさんの癒しやエネルギーをもらっています。まだまだ未熟ですが、先輩方のように患児や家族が安心できるような声かけができ、安全で丁寧な看護が提供できるようになりたいと思っています。

そのためにまずは目の前のことを精一杯頑張りと、日々成長していけるよう今後も精進してまいります。